

履修年度	2021
講義コード	kk526
授業科目	専門教育入門セミナーT(6)
Course title	Introductory Seminar Academic Disciplines T(6)
担当教員	廿日出 勇/山森 一人/山場 久昭/岡崎 直宣/椋木 雅之/片山 晋/井上 健太郎/油田 健太郎/片山 徹郎/伊達 章/横道 政裕/高橋 伸弥/横田 光広/椎屋 和久/Thi Thi Zin/中 良弘
Instructor	HATSUKADE Isamu/YAMAMORI Kunihito/YAMABA Hisaaki/OKAZAKI Naonobu/MUKUNOKI Masayuki/KATAYAMA Susumu/INOUE Kentaro/ABURADA Kentaro/KATAYAMA Tetsuro/DATE Akira/YOKOMICHI Masahiro/TAKAHASHI Nobuya/YOKOTA Mitsuhiro/SHIYA Kazuhisa/Thi Thi Zin/NAKA Yoshihiro
授業形態	演習
単位	2
対象学年	1年
開講日	後期 金曜日 5・6時限
ナンバリングコード	B0140-****-10020 分類: 基礎教育部 学問分野: レベル: 1:学部入門レベル (主に基礎教育科目及び1年次生を対象とした科目) 使用言語: 日本語で行う授業
キーワード	COC (地域を理解し実践する科目)

授業概要

専門技術者として社会で活躍するためには、自立的・主体的・計画的に考え行動し、問題や課題に直面した際に自分で対処し解決する力が必要となります。そのためには、コミュニケーション能力、自己学習能力、課題発見能力、論理的思考能力、文章記述能力、プレゼンテーション能力など、さまざまな能力を大学在学中に培っておく必要があります。この授業では、専門教育を受ける準備として、Linuxを利用する能力、日本語によるコミュニケーション能力、自己学習能力を養成します。

育成する資質・能力(ディプロマ・ポリシーとの関連)

資質・能力	説明
人間性・社会性・国際性	* 倫理観: 自己の良心と社会の規範やルール, モラルに従って行動できる。 チームワーク: 他者と協調・協働して行動できる。 多文化・異文化理解: 多文化・異文化に関する知識を理解できる。
主体的に学ぶ力	* 主体的に学ぶ力: 自ら学修計画を立て, 主体的な学びを実践できる。
コミュニケーション能力	言語リテラシー: 日本語と特定の外国語を用いて, 読み, 書き, 聞き, 話すことができる。 他者理解・自己表現力: 相手の伝えたいことを的確に理解し, 有効な方法で自己を表現できる。
課題発見・解決力	情報リテラシー: 情報通信技術 (ICT) を用いて多様な情報を収集し, 数論的スキルに基づいて分析し, 効果的に活用することができる。 * 問題解決力: 問題を発見し, その問題を論理的に分析し, 確実に解決できる。
知識・技能	* 文化・社会・自然・地域の理解: 人類の文化, 社会, 自然及び地域に関する知識を理解できる。 * 専門知識・技能: 専門分野に関する知識を理解し, 身に付けた技能 (実践力) を活用できる。

学習目標

身につける資質・能力

- (1) 課題に対して自分自身で情報を収集し学習することができる。
- (2) 他人の考えを理解し、自分の考えを説明できるコミュニケーション能力を身につける。
- (3) Linux の基本操作ができる。
- (4) 情報技術および情報技術者が社会に対して貢献している具体例について理解することができる。

授業計画

回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第1回	10月1日(金)	ガイダンス	履修の確認	担任(廿日出)
第2回	日程は担当教員と相談して決定する。	研究室配属(第1回/全5回) ・1研究室あたり5~6名の学生を配属し、研究室の教員の指導のもと、セミナー、実験、実習を行う。セミナー、実験、実習の内容を発表するとともにレポートにまとめる。	担当教員の指示に従うこと	担当教員
第3回	日程は担当教員と相談して決定する。	研究室配属(第2回/全5回) ・1研究室あたり5~6名の学生を配属し、研究室の教員の指導のもと、セミナー、実験、実習を行う。セミナー、実験、実習の内容を発表するとともにレポートにまとめる。	担当教員の指示に従うこと	担当教員

授業計画				
回数	日時	授業内容・方法	授業時間外の学修	備考
第4回	日程は担当教員と相談して決定する。	研究室配属(第3回/全5回) ・1研究室あたり5～6名の学生を配属し、研究室の教員の指導のもと、セミナー、実験、実習を行う。セミナー、実験、実習の内容を発表するとともにレポートにまとめる。	担当教員の指示に従うこと	担当教員
第5回	日程は担当教員と相談して決定する。	研究室配属(第4回/全5回) ・1研究室あたり5～6名の学生を配属し、研究室の教員の指導のもと、セミナー、実験、実習を行う。セミナー、実験、実習の内容を発表するとともにレポートにまとめる。	担当教員の指示に従うこと	担当教員
第6回	日程は担当教員と相談して決定する。	研究室配属(第5回/全5回) ・1研究室あたり5～6名の学生を配属し、研究室の教員の指導のもと、セミナー、実験、実習を行う。セミナー、実験、実習の内容を発表するとともにレポートにまとめる。	担当教員の指示に従うこと	担当教員
第7回	11月12日(金)	Linuxシステムへのログインとログアウト、デスクトップ環境と各種アプリケーションの使い方	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第8回	11月26日(金)	Linuxで用いられるシェルやコマンド	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第9回	12月3日(金)	テキストエディタEmacsの操作	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第10回	12月10日(金)	個人PCへのLinuxのインストール	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第11回	12月17日(金)	Gnuplotを利用したグラフ作成(1)	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第12回	12月24日(金)	Gnuplotを利用したグラフ作成(2) Linuxのネットワークコマンド・アプリケーション	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第13回	1月7日(金)	バージョン管理	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第14回	1月14日(金)	標準入出力・プロセス管理・ファイルの保護と共有	授業内容を理解するために予習しておくこと。そのため、復習も含めて平均で1回の授業につき3時間程度の学習時間が必要である。	片山(晋)教員
第15回	2月16日(水)	講演会	講演会について、課題のレポート作成する。	Zoom講演会を実施するので参加すること

成績評価方法			
評価手段	実施内容	評価比率	学習目標との対応
研究室配属については、プレゼンテーションやレポート	実施内容に応じて、各担当教員がそれぞれ評価する。	40%	(1)(2)
Linuxについては、演習課題	演習課題の記述内容で担当教員が理解度を評価する。	40%	(1)(2)(3)
企業見学については、レポート	レポートの記述内容、および、文章表現について担当教員が評価する。	20%	(1)(2)(4)

成績評価基準
宮崎大学基礎教育科目の受講及び成績評価に関する内規による。

成績評価基準

成績評価基準は、下記の標語と評点により、秀、優、良、可を合格とし、不可は不合格とする。

- 秀: 評点90点以上(学習目標を特に優秀な水準で達成している)
- 優: 評点80～89点(学習目標を優秀な水準で達成している)
- 良: 評点70～79点(学習目標を良好に達成している)
- 可: 評点60～69点(学習目標の必要最低限は達成している)
- 不可: 評点60点未満(学習目標の必要最低限を達成していない)

保留: 評点が30点以上59点までの者に対しては再評価を実施する。

- ・すべてのレポートの提出、中間試験、定期試験を受けていること。
- ・出席が所定の回数に満たない者は成績評価を受けることができない。
- ・中間試験、定期試験、試験に代わるレポート等における不正行為をした者は、成績評価が無効となる。

教材

適宜授業で指示する。

教科書

ISBN	書名	著者	出版社	価格
	適宜授業で指示する。			

参考書

ISBN	書名	著者	出版社	価格
	適宜授業で指示する。			

参考URL

サイト名	URL

参考資料**オフィスアワー**

オフィスアワーは指導教員ごとに異なるため、指導教員に確認すること。

関連する授業科目

大学教育入門セミナー

履修上の注意

- ・企業見学の開催の都合で、授業の順番が変わることがあります。

【事前学習・事後学習等の内容と時間】

- ・企業見学について、レポート作成に自習が必要である。
 - ・研究室配属の課題達成、および、プレゼンテーション・レポート作成に自習が必要である。
 - ・Linuxの操作方法に関する予習、復習が必要である。また、普段からUNIX系のOSに慣れ親しんでおくこと。
- なお、上記のために平均で1回の授業につき、3時間程度の学習時間が必要である。

新型コロナウイルスの影響により、やむを得ず、授業の実施方法(試験を実施する科目は、試験方法、日時等も該当)等を変更する可能性がありますので、注意してください。